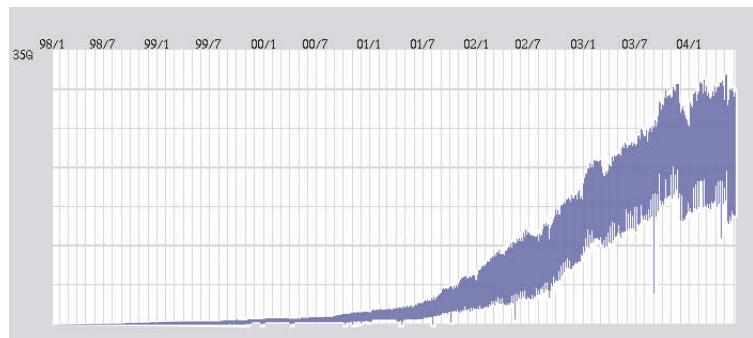


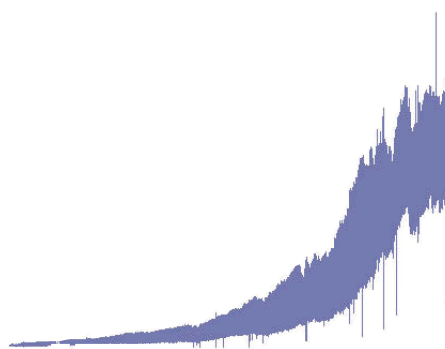
ADSL・常時接続環境の普及で急増した国内のトラフィック

資料9-1-1 JPIXの年次トラフィック推移



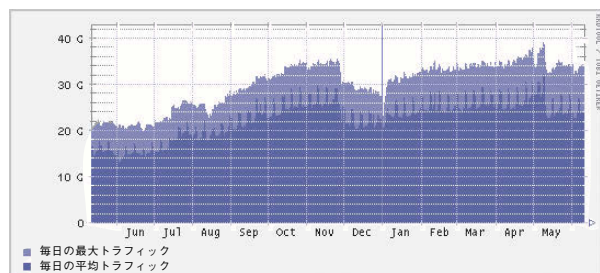
出所 日本インターネットエクスチェンジ株式会社 (JPIX)

資料9-1-2 NSPIXP-2の年次トラフィック推移



出所 WIDE Project

資料9-1-3 JPNAPの毎日のトラフィック推移 (最大と平均)



出所 インターネットマルチフィールド株式会社 (JPNAP)

資料9-1-4 国内のIXトラフィックの最大値

	2001年末	2002年末	2003年末
NSPIXP (東京+大阪)	5.5	13.0	18.6
JPIX (東京)	6.5	20.0	32.0
JPNAP (東京+大阪)	2.0	10.6	40.0
合計	14.0	43.6	90.6

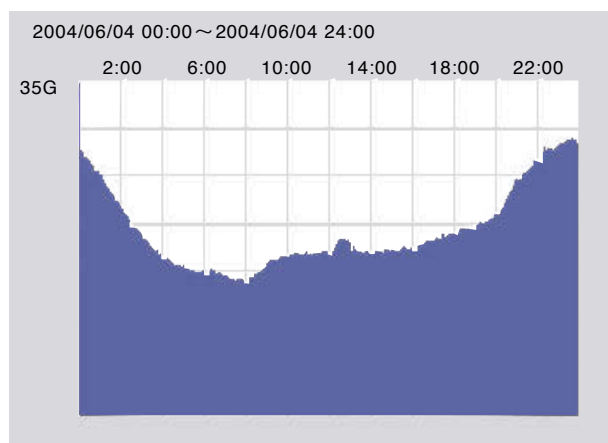
※各年度におけるトラフィックの最大値 (単位: Gbps)

出所 次世代IPインフラ研究会 第一次報告書「バックボーンの現状と課題」

ISPや学術ネットワーク間の相互接続ポイントをInternet eXchangeという。日本には、NSPIXPとJPIXとJPNAPという3大IXがあり、この3つのトラフィックを足した90.6Gbpsが国内トラフィックの最大値といえる。ただし、次世代IPインフラ研究会の調査によれば、これらのIXを通さないプライベートピアリングによるトラフィックは、この3大IXより多い120Gbpsになるという。トラフィックは年間2～3倍のペースで増加しており、ADSLが普及し始めた2001年後半から急増、8Mbpsなどの、より高速な接続サービスの登場の伴ってさらに加速しているのがわかる。

「ゴールデンタイム」にピークを迎える1日のトラフィック

資料9-1-5 JPIXの1日のトラフィック推移



出所 日本インターネットエクスチェンジ株式会社 (JPIX)

最大/最小トラフィックには約15Gbpsの差があるものの、常時接続の一般化によりダイヤルアップ接続が主流だった頃に比べてその差は縮まっている。1日のトラフィックがピークを迎える20時～23時にかけての時間帯は、テレビのゴールデンタイムと一致する。これは、インターネットが日常的な「道具」になったことを示すものだ。興味深いのは、12時30～13時に昼間のピークがあることだ。大きな事件が起きると、ピークの山がより高くなる傾向がある。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp